

和やかな・・【2003さくら道270Km】完走記

No.160 しゅくたに

【なすがままに】

先ずは一句 ^{なご}和やかな ^{おうこ}Oh!木 ^{さくら}(桜) ^{みち}の道を ^{けんろく}見録へ

長年親しんできたトライアスロンの競技中は1分1秒を争う時間との戦いであった。ウルトラマラソンに興味を持ち始めたきっかけは和やかさだったかもしれない。地図を見て楽しみ、〇-〇なんかも頂き、睡眠時間も競技中に確保して・・・、余韻が冷めぬうちに完走記を書いて楽しむ。

さくら道の三日前、突然右膝に痛みが発生した。接骨院に診察してもらったところ^{がそくえん}驚足炎と診断された。さすがにこうなると、ウルトラマラソンを走ると医者には言えなくなった。

なすがままになれである。痛み止めを打ってもテーピングをしても走る切れる距離ではない。とりあえず荘川桜まで走る事を目標にしようと決める。

【スタートライン】

今回のゴールは荘川桜までならディパックは重りになるだけだと、ウエストバックとボトルバックのみの軽装に変更である。ウエストバックの中身は、雨具、現金、地図、ライト2個と電池予備、カメラ、胃薬、少々の飲食物である。

夜は冷え込むだろう。膝が痛ければ走ることもままならないだろうからと、寒さ対策に長袖シャツの重ね着をする。暑くなれば腰にでも巻いて走ればよい。と、今から思えば浅墓な考えであった。想像以上に気温が上昇するとは予期していなかった。

昨年は見知らぬ人ばかりで和やかではあるが、話す相手が限られていて少し寂しい思いもした。この1年で声を掛けられるランナーが随分と増えたものだと自分ながら感心する。

【関の山を超えて】

スローペースでしか膝の痛みを考えると走れない。でも、ゆっくり走れば酸素も十分補強されて昨年みたいな脱水症状にはならないであろう。案外、郡上八幡や佐藤良二さんの顕彰碑まで早く到着するのではないかと期待もあった。

笠松町に入る頃には膝の痛みも麻痺してしまったのかあまり気にならなくなってきた。そろそろ、昼食の場所を確保したいが、ここで長時間休憩するとまた膝の痛みが再発するであろうとコンビニで食料を確保する。そして、歩くような速度でも足を動かそうと食べながら前へ進む。

関市に入った頃ビールを頂いたせいではないだろうが、眠気が襲う。先ほど食べた物が完全に消化出来ていないのか気分が悪くなってくる。昨年は美並村で脱水症状に陥り回復するまでに丸一日を要したが、今回は早くも関で脱水症状の兆候が訪れた。

関の山 辞書を引くとこれ以上は出来ないという最大限 意味合いは違うがこれ以上は走れないである。吐き気を催して立っている事が出来なくなり建物の影を見つけ少し横になる。ここからは、昨年の運命の場所白川郷まで十数



回の嘔吐を繰り返しては、横になるという昨年のパターンのランニングになる。

【ゴールを変えた出会い】

下記は、昨年のタイムと今回のタイムである。※開催日両年共4月28日～30日

	距離	区間	2002年	2003年
JR東海バス名古屋営業所			28日 7:00	28日 7:00
一宮裁判所前	27.3Km	27.3Km	9:53	10:34
美濃市役所前	66.4Km	39.1Km	?	16:55
郡上八幡駅前	95.5Km	29.1Km	18:45	23:13
佐藤良二さん顕彰碑	116.2Km	20.7Km	22:46	29日 3:56
ひるがの分水嶺	139.6Km	23.4Km	29日 5:43	8:07
荘川桜	154.7Km	15.1Km	8:43	11:44
御母衣ダム	163.0Km	8.3Km	10:31	13:07
白川郷分岐	179.7Km	16.7Km	14:22	15:57
下梨(左折)	209.7Km	30.0Km	22:31	21:13
福光橋	231.7Km	22.0Km	23:21	30日 0:20
石川県境	241.7Km	10.0Km	30日 2:38	2:20
兼六園・佐藤桜	259.3Km	17.6Km	5:47	5:27
ルネスかなざわ	266.0Km	6.7Km	6:41	6:38

※今年の下梨(左折)での記入は書き込みミスと思われる。また他チェックポイントでも距離と区間距離が合わないところがあるので同様のミスもある可能性があります。

レース前半はフランケンさん、M倉さん、K村さんとグッドタイミングで話相手にも恵まれ、それこそ今回の私のテーマである和やかさに相応しい時間を得る事が出来た。

そして第二幕は脱水症状が進行して苦しみのどん底である。所構わず横になる私に声を掛けてくれたのは、昨年一緒にゴールさせてもらったK田さんである。生き返る！この言葉がぴったり当てはまる。昨年よりはるかに遅い時間帯を昨年よりはるかに早い場所でもっとも出会いたかったランナーに出会う。1年間の想いをお互いぶちまける。少なくとも私の無力感に似た気分は紛れた。しかし、郡上八幡までは歩くようなスピードも次第に苦痛になり始めたので、K田さんと別れを告げる事にした。郡上八幡、白鳥でのエイドの温かいもてなしにも疲れ果てた身体はただ横になる事しか応えられない。

佐藤良二さん顕彰碑にたどりつく頃は、方向感覚も狂い始め地図を読む思考回路も断線状態となり、来た道を行ったり来たりのパニックさえとおり越した行動に出ていた。

ひるがの分水嶺に向かう頃には、雄大な長良川のせせらぎの音を見聞する余裕も出来てきた。地図も読めるだけの頭に回復してきた。問題は回復しない食欲である。

もちろんこの時間帯になるとひるが野のエイドは店じまいの後である。食べられない飲めないの焦りから、開店前の飲食店に飛び込み暖かいお茶を頂く。さくら道ネイチャーランもお祭り騒ぎで応援したという女将さんの御好意に甘え温かいうどんまで頂く。

目的地の荘川桜までは後少しである。ここで合う2人の出会いがゴールをルネスまでに変えてしまった。

一人はさくら道大会3日前に葉書を頂いた波多ママである。昨年リタイヤ宣言をした私を奇跡のゴールへと導いてくれた方である。3日前の朝ドクターストップがかかり落ち込んでいたその日の夕方に届いたのは波多ママからの応援メッセージであった。

そんな方が今年もゴールを待っているから、それに応えたい。でも、無理して走って間近に迫ったアイアンマンの登場までも取り消さなければならなくなるかと危惧するもう一人の自分がある。それより、以前に驚足炎になり2年間鍼治療に通った苦い経験が頭の中を駆け巡る。

そして、荘川桜エイドまで10Km足らずの地点で波多ママに出会う。車の中から「今年元気そうですね」と・・・飲まず食わずから、やっと少しだけ元気が取り戻せたところであるが、膝に爆弾を

抱えた身である。ゴールは間近と最後に元気を振りまいていたのかもしれない。

波多ママの車が駆け抜けてしまった後は、頭の中はハムレットの心境である。荘川桜エイドの後も走るべきか、走らざるべきか？

その後直ぐに、走り歩きしている後ろから追い駆けてくる若者がいた。〇坂さんで郡上八幡と一緒に走ろうと声を掛けてくれた集団の中の一人である。一気に抜き去るほどの走力も彼には残ってはいなかったが、目的地は同じ荘川桜エイドであった。

一緒に走っていた人が遅れてきたので、先に荘川桜エイドに行きその人が到着するのを待つと言う。そして、そこでレースを終わりにするようなニュアンスである。

荘川桜エイドは12時迄は待っていてくれると〇坂さんより聞き、何とかその時間には到着したい想いが二人を走らす。もう走り歩きではなくゆっくりではあるが走っている。

おかしな話ではあるが、レースに出た限りは諦めてはならないと昨年の自分の経験を話している。〇坂さんに言い聞かせているのが、自分自身に言い聞かせているのかもしれない。

荘川桜エイド到着は店閉まい前である。食べたい物を頼むや横になり熟睡してしまう。12時過ぎになりテントを畳む音で目を覚ます。結局何も食わずであった。

〇坂さんも追い出される格好でバス停に向かわれたみたいだ。

【荘川のゴールは新たなスタート】

荘川桜は、昨年のような桜の花は咲いてはいなかった。エイドの店閉まいに堰かされながら、華やかさがあれば、荘川桜下がゴールとなろうとそれで良いと考えた。しかし、二人との出会いもあり、荘川桜エイドを自分自身のゴールにはどうしても出来なかった。

この身が健康であったからこそここまでたどり着けたのか？身も心もボロボロになりゴールが荘川桜エイドになろうとも、ここまでの道のりで悔いのない走りは持っている実力の限り発揮出来たであろう。しかし、今年も二人の出会いによって筋書き（詩）にない走りが始まろうとしている。

《称歌は さくら》

堰ながら、身の健勝・身ボロ含みつ、詩も無しゴールかな

まさに、《荘川桜》

関・長良（川）・美濃・顕彰（碑）・御母衣・福光・下梨・（白川）郷・ル（ネス）・金（沢）
の道のりである。

【白川GOー】

御母衣ダムエイドは時間的には予想はしていたが、エイドの跡形もなかった。このままキロ9分で走れば時間内ゴールが可能であると変な皮算用ばかりしている。正確に言えばもう走り続ける事は不可能なので、歩きプラス走りで10Kmを90分でぎりぎりゴール出来る事になる。

しかし、白川郷にたどり着くまでに歩く事も不可能な状態になり、道路の端で横になる。

二度、三度とそんな事を繰り返し時間ばかりが過ぎていく。食欲は回復の兆しであったがまたもや嘔吐する。白川郷で止める事を決心する。

いざ、白川郷にたどり着くとエイドで止めると言い出せない。短所である優柔不断が思わぬところで長所に早替わりである。エイドで一緒になった男性の方は「これから雨も降り出すのでレースは終わりにします」と、バス停に向かわれた。周りは誰もいない状態は相変わらず続くが、時



間外でもゴールすると言う女性の方と一緒に走り出す。

昨年でも遅い到着時間帯であると思ったが、今年は更に遅い時間となった。しかし、体調の復活を信じルネスに向かうしかない。

長いトンネルの中を走っていると、外に出た時は雨になっているのだろうか？。陽も沈み、少しは走りやすくなるのだろうか？。風が強くなり寒い夜を迎えるのだろうか？。前を走る人に追いつき寂しさを紛らわせることが・・・と、いろいろな想いが駆け巡る。

県境が繰り返されるこの場所は、昨年以上に強い風が吹いている。帽子が飛ばされないよう手で持って走る。随分と冷え込んできたが、走れる状態になってきたので寒さは走っている限り防げそうだ。走れる限りは走ったら、力尽きてでも時間内完走に望みを託せる。もう休憩の時間など取っている時間はない。

【満ちの益】

随分と調子が上がってきた。地図では200Km地点まで残すところあと僅かである。昨年同様に完全復活することが出来た。でも、前を走るランナーには当分追いつけないであろうと思いきや、ほんの数キロの区間スピードをアップさせると一人また一人と追い越していく事が出来た。

昨年は、K田さんが追い越していった場所であり、波多ママと出会った場所である。日が暮れかけると気持ちが逸り、自然とスピードがアップしてくる。決して遅くないはずだが、後方より足音が近づく。後方の女性に道を譲ろうとすると一緒に走ろうと言ってくれた。S木Y江さんである。ランナーとして参加していたが、事情によりリタイアしたそうだ。その後はボランティアとして活躍されていたが、苦しみながらも走り行くランナーをエイドで見ていると、またどうしても走りたくなったと言う。包帯で吊られた腕が気になり「大丈夫ですか」と聞いてみると、大会前に怪我をされたそうだ。「腕より足の爪が浮いてしまったので、そっちの方が気になります」と答えてくれた。前日は顔面蒼白の疲れきった状態で、S木さんのいるエイドに立ち寄ったみたいだが、一夜明けて元気そうに走っているのが我が事のように喜んでくれた。

ウルトラマラソンの経験は豊富で、100マイル以上の距離があった頃の飛騨ウルにも常連で出場していた人だ。私は今でこそ年間何試合もウルトラマラソンを走るようになったが、以前飛騨ウルトラマラソンに出場した後は、時間内完走したもののあまりのコースと制限時間の厳しさに打ちのめされ、何年もの間、他のウルトラマラソンも含め出場を敬遠したものだ。日も暮れ一人では不安なので一緒に走ろうと言ってくれたのはS木さんだが、私もこれからは暗くなり、地図もわかりづらいところがあるので助け舟である。

「もうエイドも引き上げられお店も閉まっているから、この先の道の駅で食事にしよう」と誘ってくれた。「そうしましょう」と答えておきながら、内心制限時間が気になっていた。しかし、道の駅「上平」で食事を取った事が後から思えば完走に繋がったのではないだろうか。食堂は時間が遅いのでシャッターが下りていた。隣の喫茶店みたいところで限られたメニューを注文する。店内でO坂さんに出会う。まだゴール諦めずに走っていてくれた。女性の方を励ましながら一緒に走っている。お互い荘川から諦めずに走っていて良かったと再確認できた。しばらくすると、今度は白川郷から一緒だった女性の方が、荘川桜エイドの後、抜きつ抜かれつ時には並走する格好となった男性の方と店の中に入ってこられた。店の中で腰を落ち着けての食事は30分余りの時間を要したが、満腹感以上にこの先の安心感も頂いたようだ。道の駅に立ち寄った事は、満ちの益であった。この先は下梨のエイドも昨年より通過時間が遅く閉まっていたの、自販機しか頼るものがなくなっていた。

外気の寒さと、鷲足炎の痛みを身体が思い出し、一瞬走り出すのに戸惑う。



【砂・暗道】

二日間に渡り昼間にトンネルはいくつも通り抜けた。大型トラックに、歩道もないトンネルの壁際いっぱいには追いやられ、車の排ガスを、時にはクラクションと一緒に汗ばんだ身体に受けながら走った。それでも、長時間も炎天下の道路を走る事に比べれば交通量の少ないトンネルの中は安らぐこともある。そうなると、桜の立ち並んだ木陰を、そよ風受けて走っている瞬間は砂漠の中のオアシスである。

200Km以降に待ち構えるいくつもあるトンネルは、昨年同様真っ暗闇の時間帯である。

今年もありがたい事に、一緒に走ってくれる人がいる。五箇山トンネルを目指す坂道は急勾配で走るのを早々と諦める。風は砂を運んで容赦なく顔面に叩きつける。自販機を見つけると座り込み暫しの休憩を取る。S木さんがバックの中に入れていた、二個のおにぎりの一個を頂く。美味しさとは裏腹に砂を含んだ風が口元に忍び寄る。ザラザラとした感触を指で触れると、汗をかいた時吹き出た塩か、砂なのかわからない。ほんの少しの休憩であったが身体は一気に冷えこむ。舞う風が奏でる音は不気味な音に聞こえる。一人でならこの砂嵐の暗闇を走ることが出来ただろうか？

3000m余りある五箇山トンネルの手前より、S木さんはロードレースを走るように加速して走る。時折行き来する車の音が聞こえると歩道に上がりスピードダウン。暗闇の中は、足元が気になりおもいきり飛ばせなかった分の鬱憤を晴らすかのように走る。そのスピードにどこまで着いていけるかと思いつながら歩調を合わせる。ランニングハイの状態である。去年は随分と長く感じたトンネルであるが、今年は随分速く出口に到着した。そこは、昨年マッサージまでもしてもらったエイドである。今年もエイドはあったが、マッサージを受けるのには到着時間が遅すぎたようだ。

【新たな出会い】

エイドでのつかの間の休養後は、急な下り坂に入る。このエイドからはランナーにもようやく追いついたみたいで数人を抜いて行く。

ウルトラマラソンでは後半になると、急な下り坂は足に負担がかかり逆にブレーキをかけることがあるが、そこまで重症は至っていない。坂を下りきってもそこそこのスピードは維持しているようだ。時折後ろを振り向くと先ほどから同じスピードでライトが私達を追い駆けてくる。身体全体が暑くなり上着を脱ぎ水分補強しているとそのライトの主が追いついた。S野原S一さんであった。一度は抜き去ったそうだが、ライトの揺れを目印に追い駆けてきたそう。S野原さんの第一声は「キロ5分（を切る）のスピードで走られると中々追いつけません」と話しかけてくれた。こちらも「そんなには出ていませんよ、せめて6分ですよ」と答える。ここから三人でゴールまで一緒に走らせてもらう。

福光のエイドでうどんを頂いた。去年はここでうどんを頂いた後、ビールを飲み、マッサージを受けながら1時間寝かせてもらったところだ。今年をよくよく考えたら、脱水で横になり目を閉じて休憩したが睡眠は取れていない。唯一熟睡したのは荘川桜エイドでの15分間だけである。制限時間がなくなってきている緊張間で眠気もどこかに言ってしまったようだ。

【握手・葛藤・雨嵐】

阪上松華堂に立ち寄る。何人もの方が中から出迎えてくれた。波多ママの顔もある。

おしぼりを手渡しながら「何か欲しいものはありませんか」と言われ、牛乳を頂く。

このままのペースで走れば時間的にも余裕が出来てくのではと思いきや、眠気が襲う。

緊張の糸が切れたからだろう。後ろから車のライトが三人を照らす。運転手は波多ママであった。福光からゴールまで、最後の粘りをみせて走るランナーを応援に車を走らせ



てくれている。眠いのを察してか眠気覚ましのガムなどを手渡し、その先に走っているランナーを応援に行かれた。

この先ももう一度、波多ママの車と遭遇するが、眠さはピークに達していてグッドタイミングで暑いお茶などを頂く。感謝感激である。

県境付近となるとランナーも湧き出たように道路一杯に溢れ出した。私もS野原さんも走りながら夢心地で、S木さんからみるみるうちに離れていく。睡魔との葛藤が始まった。あまりの眠さにガードレールに寄り掛かる。最後となったエイドに到着しても、食べることより少し目を閉じるだけの場所となる。

雨も降っているので眠たくとも横になる場所もない。よろけながら我慢の走りである。このままでは道路を突っ切って、田んぼか畑に転落してしまう。そんな時にテントが張られてあるのを発見する。中は誰もいなくソファや椅子が並べられてあった。S木さんをお願いして10分間だけ眠らせて下さいと頼むや熟睡してしまった。S野原さんもS木さんも10分間の睡眠タイムに付き合ってくれた。S木さんのセットしたアラームが鳴り出す前に目は覚めたがこれでゴールまで何とかもちそうだ。

ゴールまであとわずかな距離である。雨は兼六園の標識看板も現れる頃には土砂降りである。風も強くなり安物のかっぱのフードが何度もめくれる。止めたボタンの隙間から雨水が浸入してくる。身体が雨に打たれて痛い。嵐のような天気になり、今年のゴールは去年の嬉涙のような雨でなく手痛い出迎えである。

トライアスロンのロングディスタンスのゴールならフィニッシュの時は拍手喝采で迎えられる。ウルトラマラソンのゴールは静かであるが、何人もの人達が温かく迎えてくれる。そして静かにゴールテープを切る。時がゆっくりと流れてきたみたいで、時間を共有してきた人達の顔を見ると心が落ち着く。

最後に踏み切りで足止めをくった後は、いよいよ待ちに待ったゴールである。

S木さんも一緒に入り三人でゴールしたかったが、ゼッケンを外していたのでゴール前は遠慮された。一緒にここまで走って頂き、誠に申し訳なく思う。

思うように練習時間が取れず、体調も万全とは言いがたい状況の中で私の思惑とは別のドラマが今年も出来上がった。レース前半に今年もこんなに苦しむとは予想外であり、ルネスのゴールテープを切る事もある意味では予想外となる嬉しい結果となった。

ゴールを目指して走っている私を、自分の事のように喜び強く握手してくれた波多ママには、懇親会でビールまで注いでもらった。遠くの席からK田さんも笑顔でこちらを見つめていた。来年はお二人に、もう少しカッコいい走りをお見せしたいと思っています。

【来年以降も、この道を・・・】

さくら道270Kmを二年連続で完走出来たのは、何より人々の支えがあったからだと思っています。

前日名古屋駅まで向かえに来てくれたおおひらさんは、レース中も私の事が心配で携帯に連絡を入れてくれました。去年は、トライアスリート二人で自転車でおおひらさんにサポートに来てくれたS原さんだが、今年は平日開催のために携帯にメールでの応援でした。肝心の私が携帯を持ち歩かなかったので連絡が取れずゴールするまで心配をかけたみたいです。

佐藤良二さんの顕彰碑で道に迷っている時に出合った方とは、暫くの間並走しましたが聞きした名前を忘れてしまい、懇親会でお会いした時やさしく微笑んで下さったのが印象的です。

道の駅「白鳥」から走って道の駅を超えたところでエイドを出してくれた二人の若い女性は、逆走しながらエイドに導いてくれた。飲み食いする元気がなくすまなそうにすると、「こうして辛くても頑張っておられる姿に元気をもらいました」とお礼を言われたので、戸惑いながらもこちらもお礼を言って走りだした。

昨年同様の場所でテントを張り明け方までランナーを待つO川さんや、移動しながらランナーを励ましてくれるM野さんは遅い時間通過するランナーにはありがたい存在である。

去年はさくら道のとてつもない距離に挑戦するため、プライベートで長距離の練習を何回か試みた。その最後の仕上げが名古屋まで徹夜で走る事であった。誘ってくれたおおひらは今までに一人でも走っておられたが、私には到底真似は出来そうにない。その時に名古屋でお迎えしてくれたのはS原さんである。去年は大会中に一度もお会い出来なかったが、今年はスタート前に、ほんの少し雑談する時間が持てた。何かにつけて物知りで、パソコンでの掲示板にランニンググッズの事等を投稿すると即答してくれるのでありがたい。

Y重樫さんは、ネイチャーランの後のためかリラックスモード蛭ヶ野の付近で追い越して行かれた。「随分遅い時間に走られますネ」と話けると「宿で一泊して早朝よりランニング開始・・・」と恐るべし答えである。

ウルトラマラソンが取り持つ縁か、大会で出会う機会がやたらと頻繁になった、T田さん、風峰さん、映画村さんとはウルトラ同様にこれからも長い付き合いになりそうだ。

初めて100Km以上のウルトラを完走した時はゴールの感動に酔いしれたが、あまりの辛さに二度目のウルトラ挑戦の間隔が随分と長くなった。二度目の100Km以上のウルトラ完走後もまた同じで感触であった。そして、三度目の100Km以上のウルトラは40歳を超えたらとオリンピックの開催並みの間隔であった。しかし、三度目のウルトラマラソン以降は年間何本ペースとなった。年齢を重ねると面白さがわかるウルトラマラソン。40歳を超えて楽しくなるスポーツにめぐり合ったようだ。

40代前半はウルトラではまだまだ初心者扱いみたいなので、50歳を超えた頃も今現役でバリバリ頑張っておられるM倉さん Y重樫さん 映画村さんのような存在でありたい。

今回は脱水症状に陥ってからは、人よりも遅い時間帯に走っていたので出会いは少ないはずである。そんな中に海宝さんの顔もあった。スタート過ぎではなく、ランナーも疎なほぼ最後尾あたりと云ってよいだろう。制限時間に際どいランナーを心配して走られていたのか、練習不足で海宝さんも調子が出なかったのかは分からない。今年は海宝さんがさくら道を完走されなかったのが、来年以降もさくら道270Kmは続くと私は信じています。呼びかけ人のひとり海宝さんが太平洋から日本海を走りきってしまうと、さくら道は本当に今年で終わりになりそうな気がしたからです。

最後の追い上げは、時間との戦いとなり去年は幾度となく前方で待ち構えていた俗に云う幻覚にも会わずじまい。長〜くて短い時間さくら道は47時間38分の幕を終えた。

また、来年以降も今頃は、さくら道の見聞録（完走記）を執筆していただける事を祈っています。



【心と身体】

今年のさくら道270Kmも、春なのに 夏のような暑さの中ランナーは あきもせず ふゆかいな顔もせず走り続ける。ゴールを目指す302人のランナーが自分自身のドラマを築き上げた。そんな中、脱水でコースを離脱した方は多かったようだ。N崎Y里子さんはマイペースで完走されたが、相方のM広さんは今回も脱水で苦しまれたみたいだ。私がゴールした時、脱水で苦しんで走った事を

たまたましゃべっていたのを傍で聞いておられた。実力はあっても走れないもどかしさは痛いほどわかる。内臓だけは鍛えようがないのだろうか？10年前には他人事のように思っていた脱水（胃腸障害）に今もまだ解決策がなく、私も悩み続ける。苦しみから解放される方法は今も模索中である。

さくら道ネイチャーランとさくら道270Kmを連続で走られた一人のF本さんとは、懇親会で近くに座っておられたので話しかけさせてもらった。しかし、話し振りからしてどこにそんなパワーがあるのかと思った。残念ながら、桜の花は両方共は咲かなかったようだ。

さくら道と萩往還を日を置かず走る人達、宮古島を2日連続で走る人達の心（精神）と身体は、私を含め全ての人は条件させろえれば完走は可能だと信じている。いつかはチャレンジしてみたいと思っている。

【さくら道が終わり・・・】

文章を書くことが苦手な私が、6月半ばに入った今も悪戦苦闘しながら完走記を執筆している。1ヶ月も経つと記憶も曖昧になり、福光のエイドで頂いたのはうどんかそばか記憶が取り戻せない事が出てくる。ゴールが近づくにつれ雨も降り出した。本降りになったのは覚えているが、雨が降り始めた頃がいつ頃か思い出せない。そんな事があり執筆するにあたり、走りながらメモする事も必要かなと考えさせられました。

以前に飛騨ウルトラマラソンに出た事があり、やはりその時も完走記を書く機会があったが、字が下手な事もあり書かずじまいであった。今年のさくら道270kmを完走して以来は関西周遊マラニック びわ湖畔一周マラニックと完走記（感想記）を書く事も楽しみの一つとなりました。これも字の下手な私でも気軽に書くことができるパソコンのお陰だと感謝しています。

さくら道270Km完走後の、トライアスロン・アイアンマン長崎も制限時間ぎりぎりでも何とか完走することが出来ました。今もまだ膝の痛みは思い出したようではありますが、途中で諦めることなく走りきれた自分の身体を少し休ませてあげたいと思っています。

最後に一句 ^{なごや}名古屋かな ^{おう}桜 ^{みち}この道を ^{けんろく}兼六 ^{えん}（園）へ